

令和4年度  
低栄養防止等フレイル対策  
事業報告書

東大和市



# 概要

## 事業目的

低栄養防止等フレイル対策通知事業は、健康診査データ・電子レセプトデータを分析し、「低栄養関連疾患」の治療を中断している方に医療機関への受診勧奨通知を送付し、医療機関への受診勧奨を行うとともに、電話でも栄養指導、医療機関への受診勧奨を行い、かかりつけ医と連携しながら、健康寿命の延伸・QOLの向上・長期的観点での医療・介護費の削減を目指すものです。

効果測定では、東大和市国民健康保険における電子レセプトデータを使用し、令和4年度低栄養防止等フレイル対策通知を行った方の通知前後で医療費等の比較を行いました。

## 分析対象範囲

通知前期間：入院(DPC含む)、入院外、調剤の電子レセプト  
対象診療年月は、令和3年4月～令和4年3月診療分(12カ月分)  
効果測定期間：入院(DPC含む)、入院外、調剤の電子レセプト  
対象診療年月は、令和5年2月～3月診療分(2カ月分)  
資格確認日：令和5年3月31日  
年齢基準日：令和5年3月31日

## 低栄養関連疾病一覧

低栄養関連疾病	ICD10	備考
栄養失調	E40-E46	栄養失調(症)
その他の栄養欠乏症	E50-E64	その他の栄養欠乏症
栄養性貧血	D50-D53	栄養性貧血
骨粗鬆症	M80	骨粗しょうく鬆>症<オステオポロシス>, 病的骨折を伴うもの
	M81	骨粗しょうく鬆>症<オステオポロシス>, 病的骨折を伴わないもの
骨折	S02	頭蓋骨及び顔面骨の骨折
	S12	頸部の骨折
	S22	肋骨, 胸骨及び胸椎骨折
	S32	腰椎及び骨盤の骨折
	S42	肩及び上腕の骨折
	S52	前腕の骨折
	S62	手首及び手の骨折
	S72	大腿骨骨折
	S82	下腿の骨折, 足首を含む
	S92	足の骨折, 足首を除く
	T02	多部位の骨折
	T08	脊椎骨折, 部位不明
T10	上肢の骨折, 部位不明	
T14.2	部位不明の骨折	

以下の疾病は分類が異なる事と過去骨折した病名や疲労による骨折なので含めていない  
・骨折変形治癒  
・陳旧性骨折  
・骨折後遺症  
・骨折の遷延癒合  
・疲労骨折等

# 分析結果

## 通知書送付者の性別・年齢階層別人数

性別・年齢階層別通知書送付者数

年齢階層	男性(人)	女性(人)	合計(人)
60～64歳	1	4	5
65～69歳	2	18	20
70歳以上	6	22	28
合計	9	44	53

※令和5年3月31日時点で資格を喪失されている方は計上対象外としました。

※令和5年3月31日時点年齢で人数の振り分けを行っています。

## 低栄養関連疾病の受診状況

効果測定期間（令和5年2月～3月）における低栄養関連疾病の受診状況を以下に示します。

通知書送付者に対する医療機関受診有無人数

受診有無	人数(人)	割合(%)
受診あり	8	15.1%
受診なし	45	84.9%

※令和5年3月31日時点で資格を喪失されている方は計上対象外としています。

通知書送付者に対する医療機関受診ありの者の内訳

年齢階層	男性		女性		合計	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
60～64歳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
65～69歳	0	0.0%	2	11.1%	2	10.0%
70歳以上	0	0.0%	6	27.3%	6	21.4%
合計	0	0.0%	8	18.2%	8	15.1%

※令和5年3月31日時点で資格を喪失されている方は計上対象外としました。

※令和5年3月31日時点年齢で人数の振り分けを行っています。

# 分析結果

## 通知書送付者のうち低栄養関連疾病の指導実施者数

性別・年齢階層別指導実施者数

年齢階層	男性(人)	女性(人)	合計(人)
60～64歳	0	1	1
65～69歳	1	5	6
70歳以上	0	3	3
合計	1	9	10

※令和5年3月31日時点で資格を喪失されている方は計上対象外としました。

※令和5年3月31日時点年齢で人数の振り分けを行っています。

## 指導実施者のうち低栄養関連疾病の受診状況

効果測定期間（令和5年2月～3月）における低栄養関連疾病の受診状況を以下に示します。

指導実施者に対する医療機関受診有無人数

受診有無	人数(人)	割合(%)
受診あり	2	20.0%
受診なし	8	80.0%

※令和5年3月31日時点で資格を喪失されている方は計上対象外としています。

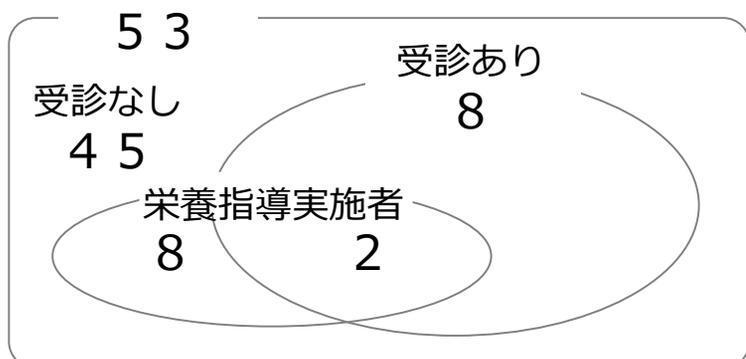
指導実施者に対する医療機関受診ありの者の内訳

年齢階層	男性		女性		合計	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
65～69歳	0	0.0%	1	20.0%	1	16.7%
70歳以上	0	0.0%	1	33.3%	1	33.3%
合計	0	0.0%	2	22.2%	2	20.0%

※令和5年3月31日時点で資格を喪失されている方は計上対象外としました。

※令和5年3月31日時点年齢で人数の振り分けを行っています。

通知送付者数



# 分析結果

## 医療費比較

通知書送付者の通知後の医療費を分析しました。

通知書送付者に対する低栄養関連疾病の受診有無別医療費比較(全医療費、入院・外来)

受診有無	患者数(人)	医療費(円)	患者一人当たり 医療費(円)
受診あり	8	481,970	60,246
受診なし	34	1,649,350	48,510

※令和5年3月31日時点で資格を喪失されている方は計上対象外としました。

効果測定期間：入院(DPC含む)、入院外、調剤の電子レセプト

対象診療年月は、令和5年2月～3月診療分(2カ月分)

※受診の無かった45人の内、34人については低栄養関連疾病以外の医療費が発生しています。

### 【内訳】

通知書送付者に対する低栄養関連疾病の受診有無別医療費比較(全医療費、入院)

受診有無	患者数(人)	医療費(円)	患者一人当たり 医療費(円)
受診あり	1	103,690	103,690
受診なし	0	0	0

※令和5年3月31日時点で資格を喪失されている方は計上対象外としました。

効果測定期間：入院(DPC含む)の電子レセプト

対象診療年月は、令和5年2月～3月診療分(2カ月分)

通知書送付者に対する低栄養関連疾病の受診有無別医療費比較(全医療費、外来)

受診有無	患者数(人)	医療費(円)	患者一人当たり 医療費(円)
受診あり	8	378,280	47,285
受診なし	34	1,649,350	48,510

※令和5年3月31日時点で資格を喪失されている方は計上対象外としました。

効果測定期間：入院外、調剤の電子レセプト

対象診療年月は、令和5年2月～3月診療分(2カ月分)

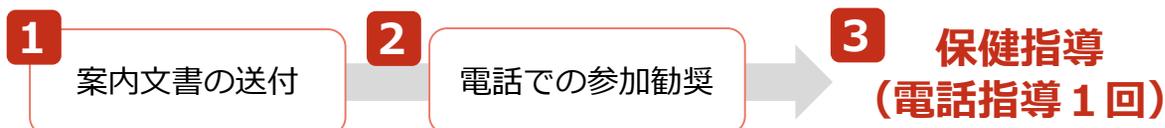
# 保健指導の内容

## 保健指導の実施

低栄養防止等フレイル対策事業において、対象者に対して保健指導の実施をします。指導実施は株式会社データホライゾンが行い、電話1回の指導を実施しました。

## 保健指導までの流れ

参加勧奨は下記の流れで実施しました。案内文書の作成から申込者の取りまとめまですべて委託会社にて行いました。



## 案内文書 外面

### 個人情報保護について

この事業は東大和市が事業主体となり、支援プログラムについては、株式会社データホライゾン 健康管理部 東京事務所が実施いたします。プログラム実施のための個人情報は、東大和市から委託先に提供いたしますが、目的外に使用することは一切ありません。

【問合せ先】

### 委託先

株式会社データホライゾン 健康管理部 東京事務所  
【住所】〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-9-3 3F  
【TEL】0120-672-420 (通話料無料、一部の電話からは繋がりません)  
【TEL】03-6265-6784 (代表)

### 委託元

東大和市 保険年金課 国民健康保険給付係  
【住所】〒207-8585  
東京都東大和市中央3丁目930番地  
【TEL】042-563-2111 (内線 1030)

無料 健康電話相談  
電話による  
栄養相談のご案内

専任の看護師が支援します

この通知は、診療報酬明細書(レセプト)・令和3年度特定健康診査の  
受診結果をもとにお送りしています。

東大和市

# 保健指導の内容

## 案内文書 内面

### このようなことはありませんか？

- 半年以内で体重が2kg以上落ちてしまった
- 気分が落ちこみ、何もする気が起きない
- 1日中座っていることや横になることが多くなった
- 手すりを使わないと階段を上ることがつらくなった
- 以前よりも歩けなくなった
- 体力の衰えを感じる
- 食欲がなくなった

放置すると、ストレスに対して抵抗力が弱まり、少しの怪我や病気が重症化しやすくなります。また、転倒による骨折のリスクが高まります。



### 栄養相談でご自身に合った 健康管理方法を知りましょう！



### 栄養相談事業の流れ

**ステップ 1** 栄養相談の参加希望についてお電話します。  
お電話に出られない場合は、おかけ直しいたします。

**ステップ 2** 栄養相談をご希望の方に再度お電話します。  
ご都合がつかない場合は改めて、お電話させていただきます。

**ステップ 3** 現在の生活習慣について伺い、アドバイスします。  
現在受診中の病気や生活習慣についてお伺いし、健やかに過ごしていただくための様々なご相談にお答えします。



# 保健指導の内容

## 参加者（70代女性）への指導内容(例)

### 【経過】

体重が大きく減少したため食事について聞きたいとのことで参加。4年前より歯科治療を行っており、上の歯は1本を除き義歯である。歯科治療中装具の作成や義歯の不具合等により食事が摂取できなくなり、体重が48kgから35kg(144cm/BMI:16.8)に減少した。

既往歴:高血圧症、骨粗鬆症。それぞれ治療薬内服中。

骨粗鬆症については歯科治療中に体調不良にて受診できない期間があったとのこと。現在は定期受診を再開しており、服薬順守できている。最近の骨密度検査:87%であった。

運動はもともと登山が趣味であったこともあり、意識してウォーキングに取り組んでいる。平均7000~8000歩/日を歩き、時々遠方にトレッキングに行き15000歩/日に至ることもある。両下肢の凍瘡に対してビタミン剤の服用と軟膏塗布で治療中だが、症状が遷延しており、冷えと疼痛が持続している。超音波検査では下肢毛細血管の異常はなかったとのこと。今後形成外科の受診を検討している。

### 【ヒアリングからの食事の意識】

- ①流動食しか摂取できなかったが、現在は刻んだものであれば概ね摂取できる状況であり、体重減少は止まっている。
- ②1日3食摂取しており、主な主菜は卵や豆腐だが、たんぱく質を多く含む食品の摂取量は不足していると認識している。
- ③「肉や魚はなかなか食べられなかったため、最近少し食べられるようになったけれど意識が薄れてあまり食べていませんでした」と話す。

### 【指導内容】

適正体重について共有し、長期的には増加が必要であることを共有。凍瘡の症状遷延に低栄養が影響している可能性についても説明した。きざみ食が摂取可能となっているため、まずはバランスよく色々な食品を摂取するよう促し、特に筋肉量維持のためにはたんぱく質を多く含む食品の摂取が必要であることを説明し、肉類や魚類の摂取再開を促した。また、体重の増加に向けて、栄養補助食品(高エネルギーゼリー等)を提案した。運動の実施状況についてはフレイル予防につながるため、継続するためには摂取エネルギーとのバランスが重要であることを説明し、継続を促した。

# 考察

## 総評

令和4年度の低栄養防止等フレイル対策通知送付者53名中、8名(15.1%)の方が医療機関の受診につながりました。令和3年度の医療機関受診率が18.6%であり、微減でした。

また、指導においては10名に指導を実施しました。そのうち2名(20.0%)が医療機関に受診しました。

通知後医療機関に「受診あり」と「受診なし」の一人当たり医療費を比べると、特に外来では「受診なし」の一人当たり医療費が約1,225円高くなりました。

## 課題

令和4年度低栄養防止等フレイル対策通知送付者53名中、10名(18.9%)の方に指導を実施しました。令和3年度では4人だった指導実施者数が10人になり増加しています。他の事業実績から比べても変わらない指導人数となりました。

参加しなかった方の理由は、詐欺などの電話が多く、対象者ご自身に身に覚えがないために参加しなかったという事です。

この事で通知パンフレットに事業の目的を明確化する事が必要になります。

また、対象者の殆どが骨粗鬆症、骨折の患者でありました。この事から、骨粗鬆症の中断者や、椎体、大腿骨骨折等骨粗鬆症に起因する骨折の治療中断者に絞る事で事業の目的を絞ることができ、対象者にも把握しやすい事業となることが想定されます。

なお、健康推進課の事業である骨粗しょう症検診(対象:40,45,50,55,60,65,70歳の女性)とは、申込期間(9月中旬～10月上旬)の重複等無いよう留意・調整する必要があります。



東大和市